桃厳寺と坂道

岡本柳英『生きている名古屋の坂道』（泰文堂、1978 年）に「織田信秀の菩提を弔う名刹」として桃厳寺が紹介されている。

桃厳寺は「正徳 2 年(1712)に、今の地に移転された。その当時は丘陵の上であって、眺望もよく、寺に行くには急坂を登らねばならなかった。その急坂の一部は、現在は四谷通りとなっている。正徳年間から 260 余年を経た今日、地形は変わっても、坂の姿は変わらない。すなわち四谷通りに面した場所は、高い石垣が築かれているのをみても、この寺が、どんなにか高い丘陵の上に建てられたかを察することができよう。」

この本にも四谷通りの坂道から桃厳寺の坂道の写真が掲載されている。右の写真は先日、名大からの帰りに撮ったものだ。四谷通りに面した駐車場から、いまも高い石垣が続いている。

昨年 8 月 15 日にレポートしたが、退職してから名大図書館をよく利用させてもらっている。地下鉄本山駅で降り、四谷通りをまっすぐ歩く。朝行くときは坂道であり、暑い時などは、すぐに汗をかく。桃厳寺あたりまでが登りであり、緑に囲まれた山門で一休みすることも多い。この本を読んで、桃厳寺と坂道、四谷通りの関係がよく理解できた。

中日新聞社から 1989 年に刊行された『愛知県航空写真集 空から見た名古屋市』を名大図書館で見た。名大から本山・東山のページをめくると、桃厳寺が緑ですっぽりと覆われていた。桃厳寺はいまも貴重な緑が残っているが、その周辺は開発が進み、多くの高層マンションが建てられている。名大も緑が多かった。「ノーベル賞効果」もあり、理系キャンパスを中心にどんどん高層建物が広がっている。

写真をじっくり見ると、東山新池前にわが懐かしの住まい「新池ビル」が写っていた。もう解体されているので、航空写真から見ることができ嬉しくなった。この写真が撮影されたのはバブル全盛の頃だが、この一帯の変化は激しいものがある。

ところで、地下鉄名城線が 2004 年に「環状化」されてから、四谷通りを歩く人が少なくなった。それまでは名大生などが歩き、賑わいのある通りであった。いまは金山や大曽根から、あるいは本山で乗り換えて地下鉄で名大に行く人が大半だ。本山駅周辺の商店街もかつてのような元気がない。四谷通りも空いていて、ゆっくりとマイペースで歩けるので助かっている。もし、ここに LRT が走っていたらと考えてしまう。

（2015 年 3 月 28 日）